



Q 具体的にどんな仕事をしているんですか？

臨床工学技士は「ME (medical-engineer)」「CE (clinical-engineer)」とも呼ばれます。

医療機関で、血液浄化装置や人工呼吸器、人工心肺装置などの「生命維持管理装置」を医師の指示のもと操作して治療をサポートをするほか、院内にある医療機器が安全に正しく使用できるように保守点検を行うなどの業務を担っています。医療技術の進歩に伴い、高度化する医療機器も増え、医学と工学の知識を持ちスムーズな治療や検査が行えるように対応しているのが臨床工学技士の役割

です。今後も、さらなる医療機器の高度化などによって臨床工学技士の増加と業務の拡大が期待されています。

Q なぜこの職業を選んだのですか？

高校2年生の時に人を助ける仕事をしたいと思い医療の道を目指しました。医療に携わる仕事を探している中で、臨床工学技士という医療機器を専門に扱い、チーム医療の員として活躍できる仕事を知り、機械を触ることが得意だったこともあつて、臨床工学技士を目指そうと思いました。

Q 今の仕事をするためにどんな資格が必要ですか？

臨床工学技士になるには国家資格が必要です。養成校には、3年制の専門学校と4年制の大学があり、卒業することで、国家試験の受験資格を得ることができます。専門学校では、1年早く臨床現場に出ることができ、1年早く経験を積みたいと考える方にお勧めです。大学はじっくりと知識や技術を取得したい人などに向いていると思います。

Q 仕事に就いてからのキャリア形成について

臨床工学技士の業務は広範囲かつ専門性が高いため、職場の実務教育、トレーニングを通じて日々勉強し、現場での経験を積み重ね、患者さんや他職種からも頼られる臨床工学技士になるために努力しています。今後は、それぞれの専門学会などが認定している呼吸療法認定士、透析認定士、高気圧酸素治療認定士などの学会認定や専門認定の資格を取得していきたいと考えています。

ボランティアイベント
[フルートピアノコンサート]

令和元年7月24日(水)フルートデュオとピアノのコンサートが開催されました。映画の音楽や童謡、演歌といった様々な分野の曲を7曲ほど演奏していただきました。観客の方々は優しいフルートの音色とフルートの音とフルートに合わせた優しいピアノの音色がとて心地よさを感ずることができ、良いひとときになったのではないのでしょうか。

心地いいフルートとピアノの優しい音色



臨床工学技士は医学知識だけでなく、病院内の様々な医療機器に関する幅広い知識をもち、操作や管理、修理点検を行っています。私たちが保守点検した医療機器が患者さんの安全な治療に貢献できていることや、医療機器に関して他職種から頼られている存在であることにとってもやりがいを感じています。

また診療科や急性期・慢性期を問わず治療に関与することができ、臨床工学技士の魅力の一つです。

77号 2009.5



148号 2015.6

2015年4月現林院長の就任で、更なるスタートを切りました。先人の伝統を引き継ぎ、地域の皆様の健康と医療を守る決意表明が披露されています。

1号 2000.9

旧国立下関病院と旧国立山口病院が統合し、国立下関病院が誕生した年に創刊されました。

7号 2002.6

2002年4月、佐柳院長(現昭和病院院長)を迎え、2003年6月号より地域の方に向けた、現在の広報誌月刊「海峡」のはじまりとなりました。

100号 2011.4

100号の節目は、新病院3年目を迎えるとともに、東日本大震災をうけ、関門医療センターの医療の原点を見つめなおす大切な機会となりました。

編集後記

毎月発行している関門医療センター広報誌「海峡」も今回で200号となりました。200号を記念して、いつもよりページ数を増量して皆様にお届けさせていただきます。「海峡」は毎月、林院長をはじめ広報委員会により記事の内容・テーマを決定しています。患者さん・市民の方が「どのような内容を期待しているか?興味を持てる内容か?」等、思いを巡らしながら記事を決めています。時には意見がまとまらず長時間にわたり話し合いが続くこともありますが、決して自分たちの自己満足にならない

よう、読み手のことを第一に考えた広報誌になるよう心がけています。また、今回の記念にあたり、前院長 佐柳 進先生(現昭和病院院長)にも快くお祝いのコメントをいただきました。また、これまで職員以外にも様々な方々に記事やインタビューをお願いさせていただきました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。これからも関門医療センターの今、の情報を発信し、地域に身近な病院として感じていただけるよう努力してまいりますので、今後とも「海峡」をよろしく願います。

広報委員会

★代表 TEL(083)241-1199 FAX(083)241-1301
★地域医療連携室 TEL(083)241-1191(2561-2377) FAX(083)241-1302
(★透析センター FAX(083)241-1308) https://kanmon.hosp.go.jp/

〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号
国立病院機構 関門医療センター
診療受付時間: 午前8:30~11:30 午後(各診療科外来にお問い合わせください)
※土曜日・日曜日・祝祭日は休診 ※臨時休診は各外来窓口に表示

海峡 à la carte



海峡200号を記念して

最新ニュースを楽しみにしています

海峡200号発行おめでとうございます。もう18年前になりますが、私が前身の国立下関病院に赴任した当時は、1年に1回だけ、新春挨拶を兼ねて発行されていました。刷りで経費も大変だろう」と国立下関病院が何を考え、ご心配頂きました。そういえるよう動いているのか、地域の皆さんに知って頂く試みは、この「海峡」の充実から始まり、デジタルカメラとカラーコピーが至極日常的に普及する時期と一致していたことも取り組み、毎月発行を宣言して実行に移しました。これが取り出した月刊「海峡」です。



特定医療法人 茜会 昭和病院長 佐柳 進

読者は、地域の方々を念頭 月刊で発行するには、大変に置きました。職員向けの労苦を伴います。まずニュース機関連誌ではありません。地域を次々と作り出すエネルギーの医療関係者にも、地域住民が必要で、そして1カ月の目線でニュースをお届けすることにしました。そのため、印刷、送付をこなすことに専門用語は分かり易く表現する必要があります。大変な作業ですが、カラー写真を多用して最新ニュースを届けて頂く記事内容をイメージし易く楽しみは、他の病院だよりでは味わえない醍醐味です。これからの地域に身近な病院から「よく分かり面白い」として、関門医療センターの高い評価を頂きました。ある今、をお届けください。



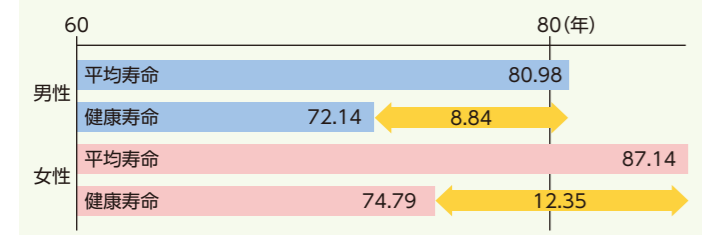
関門医療センター 病院長 林 弘人

このたび関門医療センター広報誌「海峡」は200号の節目の発行となりました。いつも皆さまにご愛読いただきありがとうございますことに衷心より厚く御礼を申し上げます。「海峡」は平成12年7月1日、旧国立下関病院と旧国立山口病院が統合し、新しい国立下関病院として誕生した時に創刊されました。創刊号の一面は、2代前の病院長である山田通夫名誉院長が新病院への思いを執筆されており、二面、三面は旧病院の全景および運営方針が掲載されており、その中で「教育研修の運営方針」も示され、当センターにおける臨床研修方針の礎とも云うべき事上磨練の教えが述べられております。平成14年4月に前病院長である佐柳 進名誉院長が着任され、医療関係者や地域住民の皆さまへのきめ細かい情報発信を目的として、その翌年の6月より毎月発行となり現在に至っております。創刊号から「海峡」という



2019年度より心臓血管外科が新設となりました。当科では頭頸部を除く動脈疾患、静脈疾患を対象に診療を行っています。従来からの外科治療に加えて低侵襲の血管内治療、カテーテル治療を積極的に取り入れ患者さんに適切な治療を提供し、地域医療施設との連携構築に努めてまいります。

▲平均寿命と健康寿命の差:2016年



<厚生労働省「第11回健康日本21(第二次)推進専門委員会資料」(平成30年3月)>

▲福祉用具の貸与(レンタル)の対象種目



出典:介護保険と福祉用具(パンフレット) - 厚生労働省

サンデー健康応援講座
生活を支える福祉用具について
 近年、医療の発展はめざましく平均寿命が毎年更新されていくことは、テレビや新聞でご存知のことと思います。先進諸国の高齢化率を比較してみると、日本は平成17(2005)年には世界で最も高い水準となり、今後高水準を維持していくことが見込まれています。ここで、注目されるようになったのが、健康寿命です。世界保健機構(WHO)が、2000年に提唱した健康寿命は「自立した生活ができる期間」とされ、単に寿命を延ばすことではなく元気で過ごせる期間を延ばしていくという考えでした。日本の平均寿命の年齢に対して、健康寿命の年齢を比べると、差があることがわかります。(厚生労働省研究班「国民生活基礎調査2016年参照」つまり、何かしらの病気や障害で自立した生活が行えない期間が、男性は約8年、女性は約12年あるということになり、この期間

ここで、ご紹介したいのが福祉用具の活用です。福祉用具は、日常生活の自立を支援するためのもので、介護保険を通じてレンタルすることができます。身近なものですと、杖やシルバーカーになりますが、杖1つとっても様々な種類があります。この選択によっては、不便に感じていた生活が一変することもあり、専門家による選定が重要です。当センターでは、リハビリテーションスタッフや看護師、医療相談員がそれぞれの専門性を生かしてアドバイスすることができますので、お気軽にご相談ください。



副作業療法士長
 片岡 靖雄

コンビニ食材で作る**簡単、冷やし汁風**

【用意するもの(1人分)】
 サラダチキン(スライス)20g、胡瓜5g、
 ゴマ少々、味噌10g、粉末だし0.5g、
 冷水90ml(ペットボトル)

【作成手順】

- ①ボールに粉末だし0.5g、味噌を10g入れる。
- ②冷水30mlをボールに加え、味噌をよく溶かす。味噌が溶けたら、水を全て加えてよくかき混ぜる。
- ③汁碗にサラダチキン、胡瓜、ゴマを入れて、②を静かに注ぎ、完成。(具はお好みのものをどうぞ。)



また、カレー粉などの香料は食欲増進効果もあるので、食欲のない時でも食べられるかもしれません。色々、試してみましょ。



栄養管理室長
 藤原 朝子

心臓血管外科の看護体制

6C病棟

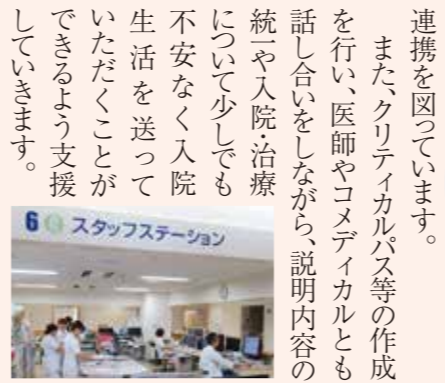
2019年4月より、心臓血管外科の診療科が新設され、6月より6C病棟は外科・心臓血管外科病棟となりました。担当病棟となる準備として4月・5月で病棟全体での勉強会を実施しました。勉強会はスタッフ全員が参加し、疾患・治療・看護について学び、大事な観察点や知識を再確認しました。患者さんが安心して治療を受けられることができ、安全にも配慮できるよう医師と十分な

外来



外来看護師長
 室住 夕子

心臓血管外科が新しく診療科に加わり、今年4月より水曜日と金曜日に外来診療を行っています。血管外科ということで下肢静脈瘤や腹部大動脈瘤に対しての血管内治療が始まりました。血管内治療は主に血管造影室で行われるため、時間外等でも検査処置が安全に実施できるよう、外来看護師が看護職員全員を対象とした血管造影室のオリエンテーションを行い、また、医療機器・医療材料



6C病棟看護師長
 藤津 京子

血圧脈波・経皮酸素分圧検査について

血圧脈波測定は、両腕・両足首の4か所の血圧を計測することで「血管の硬さ」や「血管の詰まり」の程度を測定し動脈硬化の進行度を知ることができ、痛みはなく、所要時間は5〜10分です。血管の硬さはCAVI(キャビ)という数値で表し、心臓の動きが血管に伝わる速度を測定します。血管の詰まりはABI(エービーアイ)という数値で表します。主に足の動脈の詰まりの程度を知ることができます。ABIの基準値は0.91〜1.40であり0.9を下回ると足の動脈が詰まり気味で血行が悪くなっている可能性があります。当センターでは心臓血管外科に受診を促すシステムとなっています。また、6月より経皮酸素分圧測定という新しい検査が始まりました。この検査は足にセンサーを付け末梢に供給される酸素の量を直接



計り、虚血の状態を知ることができ、痛みはなく、悪くなった状態をいいます。複数箇所を同時測定することができ、全国的にもこの機器が導入されている施設は少なく、下関では当センターのみ検査を行っています。内径が狭くなり血液の流れが悪くなったり、痛みを伴った状態をいいます。自覚症状がないまま進行しサイレントキラー(沈黙の暗殺者)とも呼ばれています。動脈硬化の原因は主に加齢と生活習慣病とされ、高脂血症や高血圧、肥満、喫煙、運動不足などが危険因子です。気になる方はぜひ検査を受けてみて下さい。



臨床検査科
 血液主任
 畷田 隼希

特集 心臓血管外科 診療開始しました!

主な診療内容

▲末梢動脈疾患(閉塞性動脈硬化症、バイパス(ビュルガー)病など)▼

間欠性跛行や難治性創傷など症状のある下肢虚血に対して運動療法や薬物療法、カテーテル治療(バルーン拡張、ステント留置)(図1)、バイパス手術(詰まった部位を迂回して血液を流す手術)(図2)を行うております。特に安静時痛や潰瘍を伴う重症虚血肢は切断することで生活の質が著しく低下するため、積極的な血行再建を行う

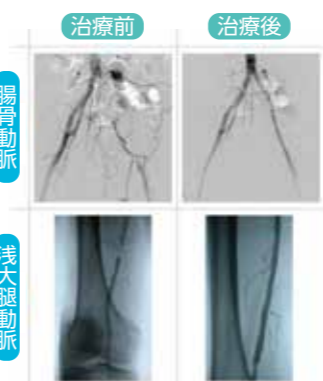
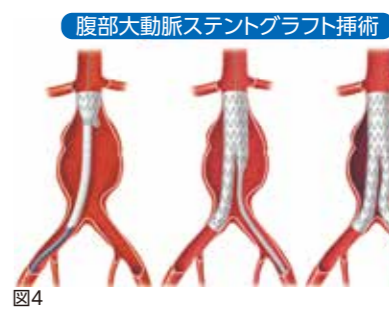


図1 膝下部 Below knee(BK) Distal bypass



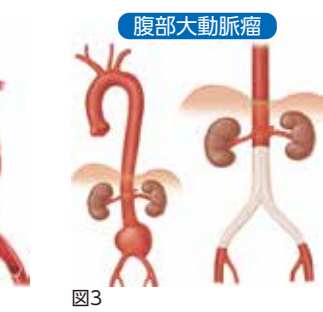
図2 レーザー焼灼術

▲大動脈瘤▼



腹部大動脈瘤の治療では、総合的に評価した上で瘤切除人工血管置換術(図3)やステントグラフト内挿術(図4)を行っています。腹部大動脈瘤は、足の血管がコブのようにふくれる病気で、決して珍しい病気ではなく、10人に1人はこの病気がかかっているとされています。人間は立って生活をするため、どうしても足の静脈の圧が上がりやすく、静脈瘤になりやすいと考えられています。一旦、静脈瘤になると、自然に治ることはありません。下肢静脈瘤に対しては低侵襲な血管内レーザー焼灼術を導入しております(図5)。

▲その他▼



四肢急性動脈閉塞症、内臓動脈瘤、腎動脈狭窄症などにも対応いたします。当科を受診したからといって、必ず手術を実施するわけではありません。できるだけ低侵襲な検査で診断し、運動療法や薬物療法、カテーテル治療、手術療法を選択肢に入れた適切な治療が実施されるように心がけます。血管疾患が疑われる場合は一度ご相談ください。当センターは関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施施設の認定を取得しています。



図5 レーザー治療



心臓血管外科医長
 村上 まさり 雅恵

図はトアエイヨー社「インフォームドコンセントのための心臓・血管病アトラス」より引用